

薬剤種類数別に見た 処方せん枚数(受付回数)の分布

保険局調査課
(平成30年6月)

2017年3月調剤分(2017年4月審査分)の調剤レセプト(電算処理分)を分析し、都道府県別、年齢階級別、薬剤種類数別に処方せん枚数(受付回数)を集計した。本分析に関する詳細データについては、下記URLにて公表する。

(http://www.mhlw.go.jp/bunya/iryohoken/database/zenpan/xls/cyouzai_doukou_topics_h30_06.xls)

集計対象、集計方法などについて

(1) 集計対象

2017年3月調剤分(4月審査分)の調剤レセプト(電算処理分)のデータ

(2) 集計方法

集計方法は以下のとおり。

- ① 都道府県別、年齢階級別、調剤された医薬品の薬剤種類数別に処方せん枚数(受付回数)を集計
 - ② 都道府県毎に、各年齢階級における薬剤種類数別の処方せん枚数(受付回数)を、当該年齢階級の処方せん枚数(受付回数)の総数で除し、当該年齢階級における薬剤種類数別の処方せん枚数(受付回数)の構成割合を算出
- ※1 本分析では、同一レセプトにおける調剤情報レコードの調剤年月日が同一の場合の調剤を1回の調剤と見なし、また、この調剤1回を処方せん1枚(受付回数1回))と見なして集計している。月次版調剤メディアス、年次版調剤メディアスでは、調剤レセプトの受付回数欄に記載された処方せん受付回数を処方せん枚数(受付回数)として集計を行っているため、本集計における処方せん枚数(受付回数)と若干の差がある。ただし、差は0.1%未満である。
- ※2 薬剤種類数は、医薬品コード毎に剤型・薬効分類・一般名の一致する場合を同一種類として数えて集計を行っている。
- ※3 全ての剤形の医薬品を含めている。

(3) 年齢調整の方法

各都道府県、各年齢階級の処方せん枚数(受付回数)の総数が、全国の各年齢階級の処方せん枚数(受付回数)と同じであると仮定した場合の、各都道府県における薬剤種類数別の処方せん枚数(受付回数)の割合を算出した。集計方法は以下のとおり。

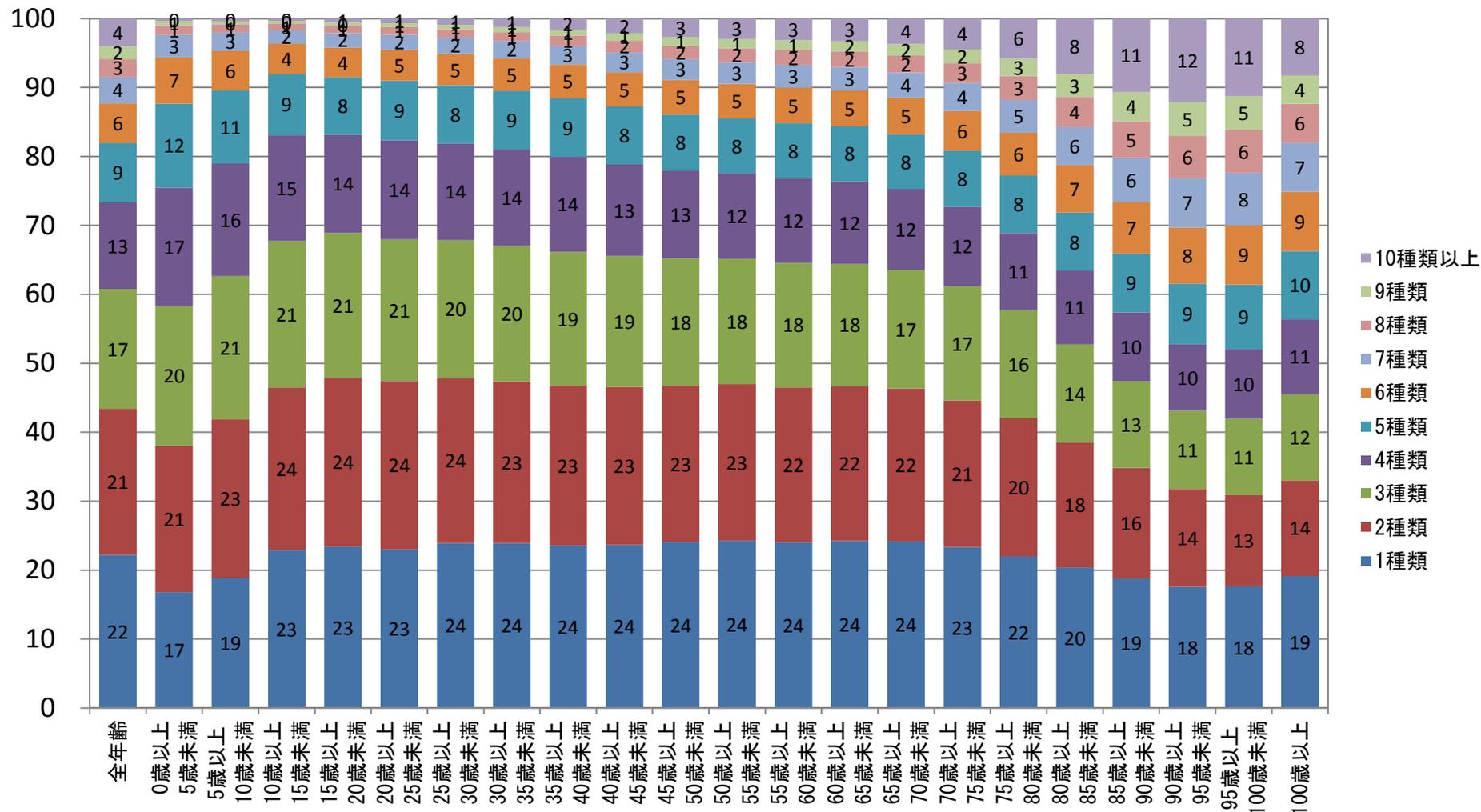
- ① 都道府県毎に、各年齢階級における処方せん枚数(受付回数)の総数に占める薬剤種類数毎の構成割合に、全国の当該年齢階級における処方せん枚数(受付回数)の総数を乗じた。
- ② 薬剤種類数毎に、全ての年齢階級の処方せん枚数(受付回数)を合計
- ③ ①、②で集計された薬剤種類数毎の処方せん枚数(受付回数)を、処方せん枚数(受付回数)の総数で除し、構成割合を算出

※ 本資料はあくまで処方せん1枚(受付1回)当たりの薬剤種類数に関するものであり、患者が服用している全ての薬剤種類数ではないことに留意が必要

年齢階級別、薬剤種類数別にみた処方せん枚数（受付回数）の分布

○ 年齢階級別、薬剤種類数別に処方せん枚数（受付回数）の分布をみると、75歳から100歳にかけて年齢が高くなるほど種類数の多い割合が増加する傾向がみられる。また、10歳未満の小児では、10歳以上の年齢階級に比べて、種類数の多い割合が高い傾向がみられる。

(%)

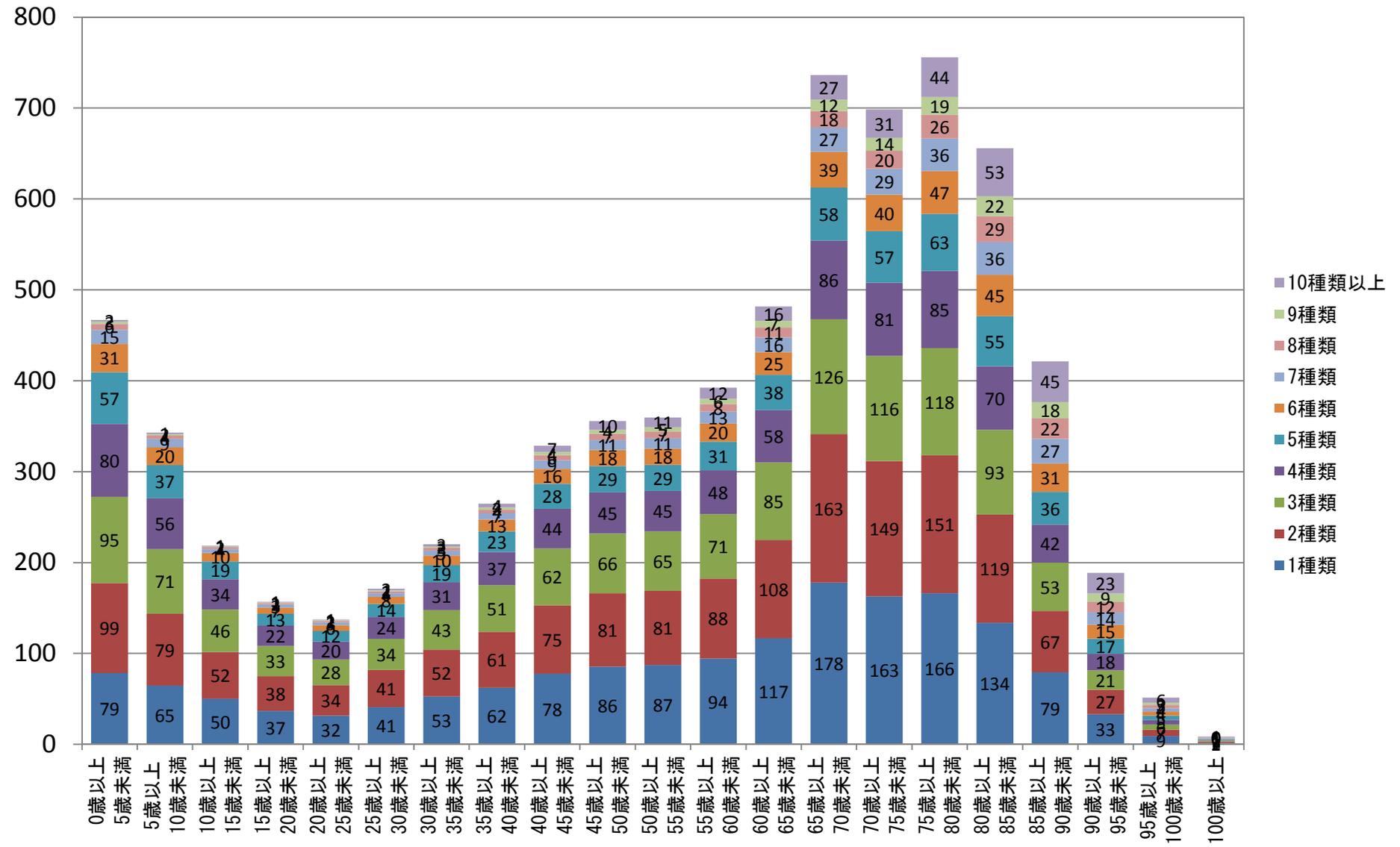


注) 各都道府県の処方せん枚数(受付回数)の総数を100としたものである。

2017年3月調剤分(2017年4月審査分)

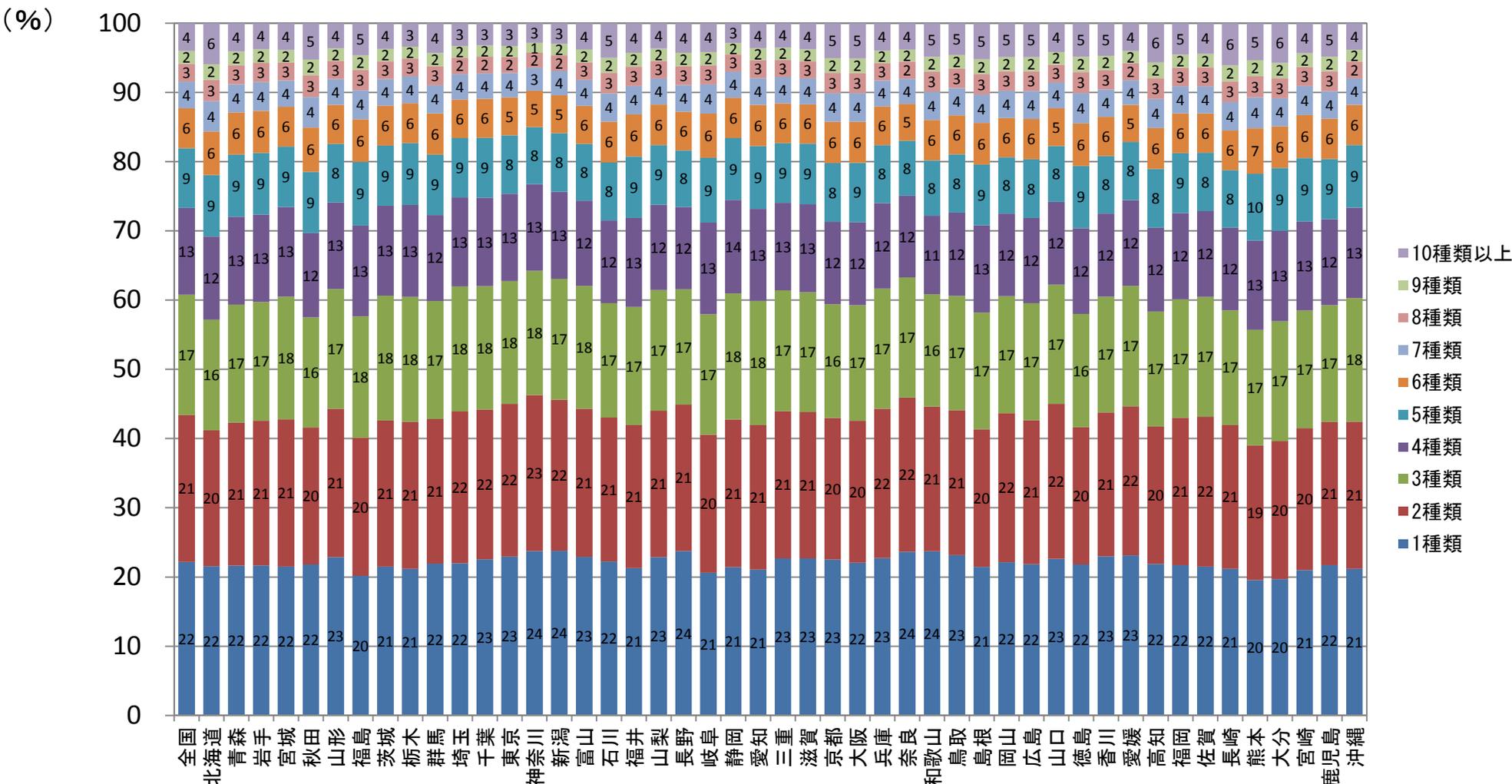
年齢階級別、薬剤種類数別にみた処方せん枚数（受付回数）の分布

(万枚)
(万回)



都道府県別、薬剤種類数別にみた処方せん枚数（受付回数）の分布

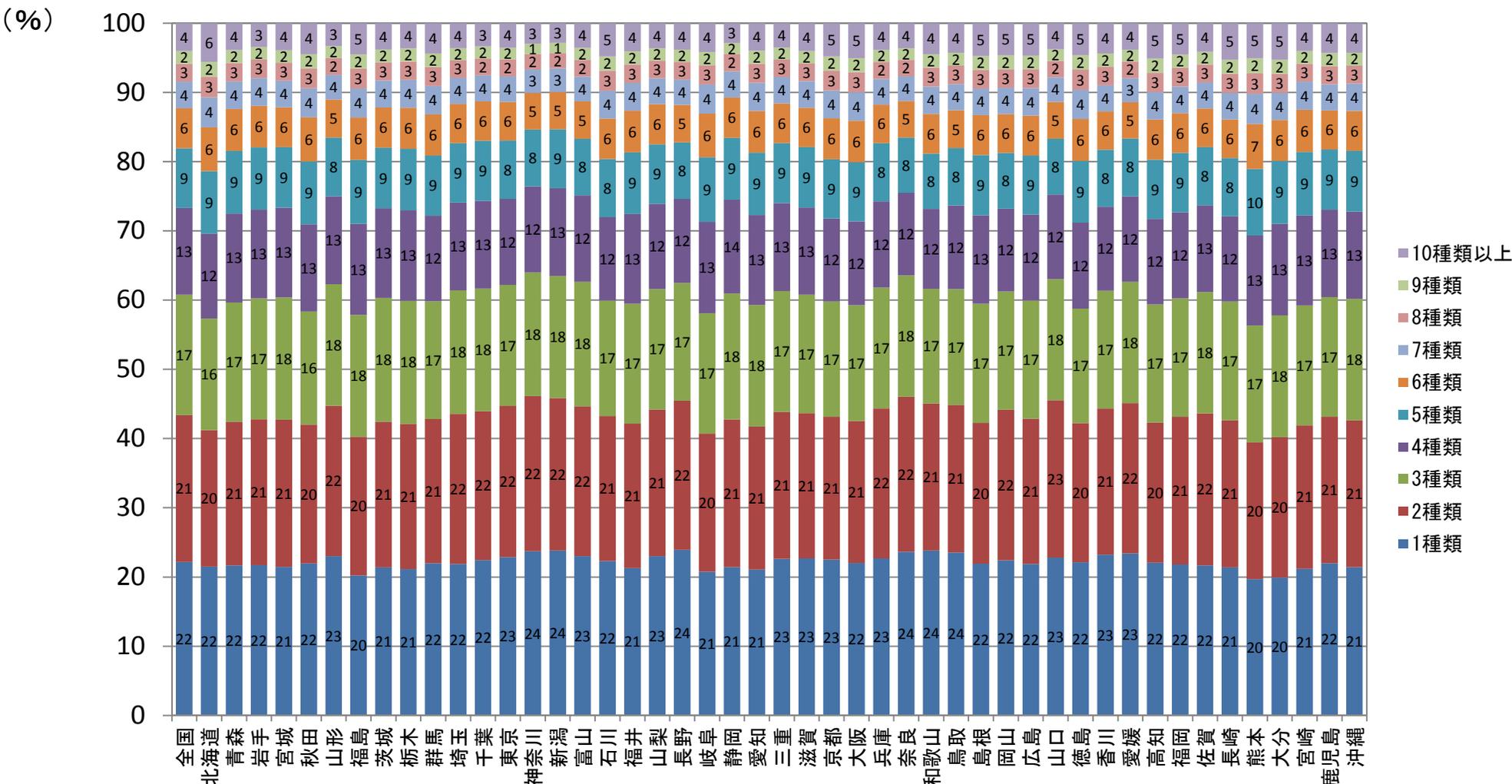
○ 都道府県別、薬剤種類数別の処方せん枚数(受付回数)の分布をみると、北海道、秋田、福島、徳島、高知、熊本、大分等は全国計と比べて種類数が多い割合が高い。一方、埼玉、千葉、東京、神奈川県、新潟、奈良、山口等は全国計と比べて種類数が多い割合が低い。



注) 各都道府県の処方せん枚数(受付回数)の総数を100としたものである。

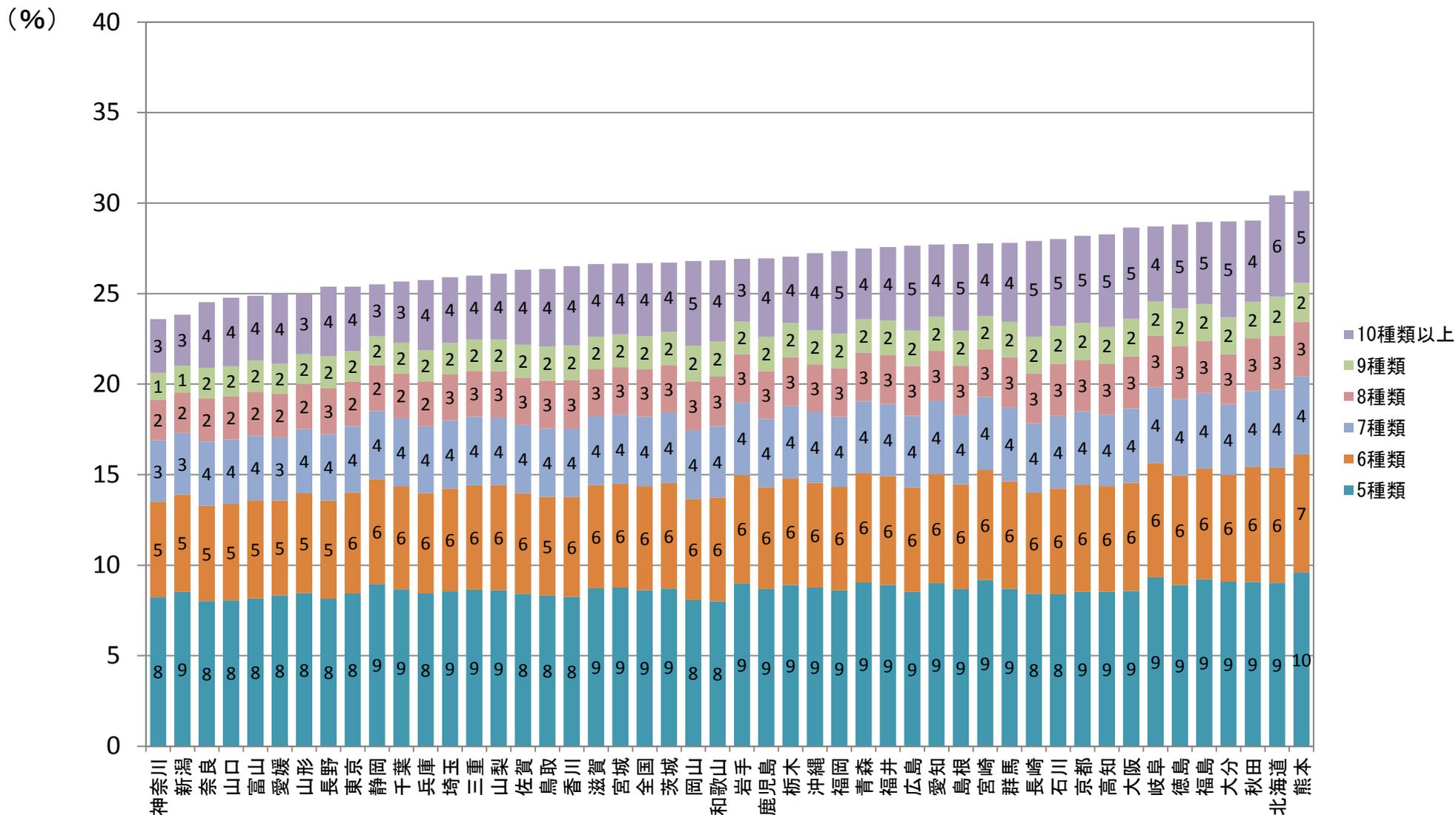
都道府県別、薬剤種類数別にみた 処方せん枚数（受付回数）の分布（年齢調整後）

○ 処方せん枚数(受付回数)による年齢調整後の分布においても、都道府県間のバラつきがみられる。



注) 各都道府県の処方せん枚数(受付回数)の総数を100としたものである。

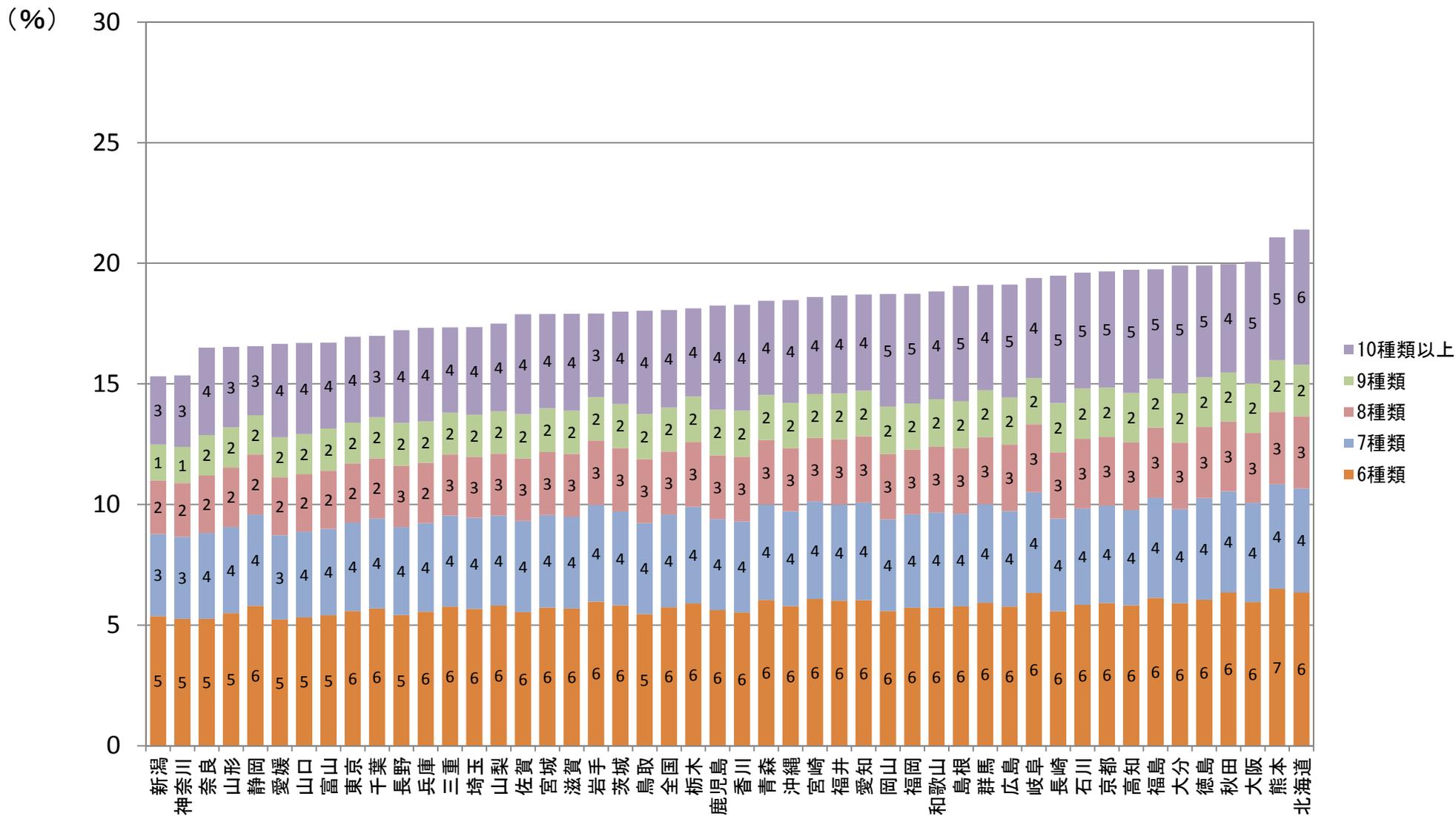
都道府県別、薬剤種類数別にみた 処方せん枚数（受付回数）の分布（年齢調整後）（5種類以上）



注1) 各都道府県の処方せん枚数(受付回数)の総数を100としたものである。

注2) 薬剤種類数が5種類以上の処方せん枚数(受付回数)の構成割合が小さい順に並べたものである。

都道府県別、薬剤種類数別にみた 処方せん枚数（受付回数）の分布（年齢調整後）（6種類以上）

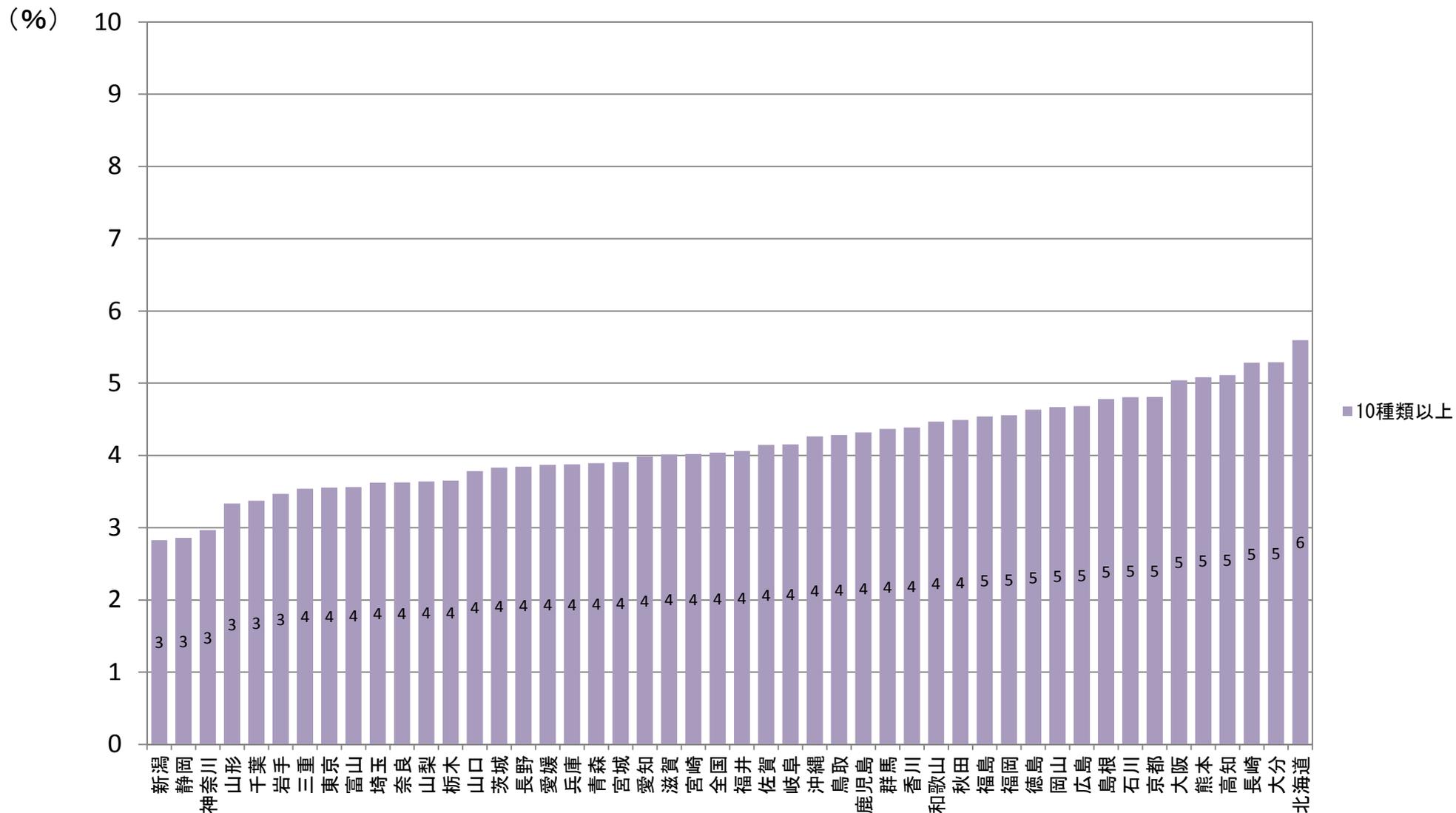


注1) 各都道府県の処方せん枚数(受付回数)の総数を100としたものである。

注2) 薬剤種類数が6種類以上の処方せん枚数(受付回数)の構成割合が小さい順に並べたものである。

2017年3月調剤分(2017年4月審査分)

都道府県別、薬剤種類数別にみた 処方せん枚数（受付回数）の分布（年齢調整後）（10種類以上）



注1) 各都道府県の処方せん枚数(受付回数)の総数を100としたものである。

注2) 薬剤種類数が10種類以上の処方せん枚数(受付回数)の構成割合が小さい順に並べたものである。